

令和7年度 第1回郡山市中小企業及び小規模企業振興会議 会議録（要旨）

日時：2025（令和7）年10月8日（水）15:00～16:30

場所：郡山市総合福祉センター3階 研修室

【出席者】

委員：初澤敏生会長、宇埜康平委員、大滝秀雄委員、大槻礼子副会長、河内勉委員、小林文紀委員、鈴木英夫委員、諸橋有紀子委員

（欠席：臼井一雄委員、大橋真孝委員、佐藤保委員、柳沼広人委員、柳田美華委員、吉田由美子委員、鷲谷恭子委員）

オブザーバー出席：渡邊博之（大橋委員 代理）

事務局等：板橋農商工部長、本田農商工部次長兼産業創出課長、本間産業雇用政策課長補佐兼産業政策係長、山田産業創出課長補佐、日下部観光政策課長補佐兼観光デザイン係長、佐々木産業雇用政策課雇用政策室長、村田産業雇用政策課産業振興係長、渡辺輸出・マーケティング係長、伊達産業雇用政策課産業政策係主任、浅野産業雇用政策課産業政策係主査

【傍聴者】：なし

1 開会（司会：伊達主任）

2 会長挨拶

- ・ご多忙の中、委員の皆様にはご出席いただき感謝いたします。
- ・早いものでこのメンバーでの会議も本日が最後になる。2年間誠にありがとうございました。
- ・本日の議事は、今年度の産業振興政策についてと来年度の予算編成に向けての意見交換である。新市長になり初めての予算編成であり、郡山市の産業政策がどのようになっていくか非常に関心深い。委員の皆様の忌憚のない意見をお願いしたい。

3 議事

会長が議長となり議事を進行。

(1) 令和7（2025）年度 郡山市産業振興重点施策について

事務局から資料により、令和7年度 郡山市産業振興重点施策について説明。
（初澤会長）

- ・ただいま事務局から説明がありましたが、委員の皆様からお一人ずつご意見等をいただきたい。

(大滝委員)

- ・文化スポーツ観光の融合で様々な予算があるが、成果があったという指標があるのか。
- ・継続的に観光誘客と交流人口の増加を進めていると思うが、成果は少しずつ上がっているのか。
- ・スポーツ関連施設を作り観光客が来たり、商店街が潤ったりという成功事例をニュース等で耳にするが、郡山も進んでいるといいと思う。

(事務局)

- ・総合計画の実施計画の中で、個別の事業の指標があり公表している。
- ・観光に繋げるための取り組みを今後加速していく。

(河内委員)

- ・項目が多く、少額の予算が多いので費用と時間をかけては申請しづらい。項目を減らし、重点政策を絞って3桁の単位で予算をあげてほしい。
- ・来年6月に実業団のトップメンバーが、11月に全国のクラブチームが郡山市に集結し、全国卓球大会が開催される。応援団を入れると1万人規模となる。宿泊施設や練習場が足りなくなることが予想される。地域住民との交流もしたい。総合的な窓口はどちらになるのか等が知りたい。

(鈴木委員)

- ・創業の相談が多くなっている。特に若い女性(業種はサービス業)が多い印象だ。資金面で苦慮されている方が多いので引き続きお願いしたい。

(宇埜委員)

- ・融資のほかに補助金の相談が多く、零細企業のため補助金の対象にはならない事業者が結構いる。ハードルを下げて、少額でも行き渡るような補助金を考えていただきたい。

(大槻委員)

- ・基本方針に則り素晴らしい施策がとられている。私どもも協力していくが、市も情報発信をし、周知をしてほしい。
- ・スタートアップ等、若者に対しての施策はあるが、女性が活躍できる施策がなかったと感じている。
- ・人出不足や人口減少を考えた時に若い女性の県外流出が問題だと思うので郡山に残ってもらえるような施策が必要である。

- ・若い女性が長く、正社員として働き続けことができる企業を増やすことも今後、大事になっていくと思う。

(小林委員)

- ・来年、震災から15年になるので、DCをブラッシュアップし、郡山市が旗振り役になり、17市町村の広域圏を集結してほしい。3年で終了せず、集客をし、移住してもらくくらいの長いキャンペーンにしてほしい。

(諸橋委員)

- ・施策の中で専門家の派遣などがあったので、郡山の発展のために協力できることは取り組んでいきたい。
- ・業務改善助成金の問い合わせが驚く程多く、県外各地からの問い合わせもある状況だ。施策について知らない企業も多いので、説明会や相談の機会に対応していきたい。

(初澤会長)

- ・先ほどDCの話が出たが、郡山市のプレDCの速報値はでているか。

(事務局)

- ・このプレDCの取り組みの結果、入り込み客数は増えたという報道があったと記憶しているが、手持ち資料を持参していない。

(小林委員)

- ・残念ながら万博開催と重なり、新幹線の事故も続いてしまったことも影響していると思う。

(初澤会長)

- ・福島市の審議会委員もしているが、効果がないという声もあり、体制を立て直さないといけないと感じている。
- ・一本の水路とロールプレイングゲームについて、面白いアイデアだと思うが、予算が少し少ないのではないか。この予算でゲーム化ができるのか。

(事務局)

- ・現在、プロポーザルで事業者を募集している。詳細は申し上げられないが、予算内でゲームが作れると認識している。

(初澤会長)

- ・アニメやゲームを実施している自治体も多いが、成功事例がわずかである。成功事例を参考に予算をきちんとつけて是非成功させていただきたい。

- ・特に台湾からの観光客は広域的に動くので、郡山のPRを強化すると効果が上がるのではないかと。昨年、台湾からの留学生に様々な観光ガイドブックを購入してもらったが、仙台のものはあるが郡山のガイドブックはなかったとのことだった。
- 予算をつけて、web版でもいいので郡山ガイドブックを作成すれば効果も上がるのではないかと。

(事務局)

- ・ゲームの成功例に淡路島の観光協会で作ったものがあり、成功事例として認識し参考にしながら今後、事業を推進していく。
- ・ガイドブックについては、台湾の簡体字で郡山ガイドブックを作成し、配布を考えている。

(初澤会長)

- ・ガイドブックは横書きでの記載か。AIでの自動翻訳機横書きでないと反応しないこともあるので横だとよい。自動的に色々な国の言葉に変換してくれる。

(事務局)

- ・縦書きであったと思う。(後に横書きであったと再回答)

(河内委員)

- ・大槻委員からの若い女性の県外流出対策について、昨年2月に同友会として知事懇談会に提言している。
- また、昨年は、福島県が若い女性の県外流出率が47都道府県の中で一番悪かった。
- 封建的な古い家族制度が福島県に残っていることが原因ではないか。企業を含めての意識の改革、特に男性の意識の改革が必要である。
- 県は積極的に予算をつけてやってくれている。郡山市でも予算づけを是非お願いしたい。市長の「選ばれるまち郡山」のひとつだと思う。

(初澤会長)

- ・一時期婚活が盛んだったが、人口比率がアンバランスで、女性が全員結婚しても男性の4分の1が余ってしまう。どうにかしなくてはいけないと思う。

(河内委員)

- ・同友会の政策提言委員会でも大きなテーマである。来年も県に提言予定。家父長的なところを取り除くことが課題である。

(大槻委員)

- ・女性活躍の推進に助成をしている市もあるが、郡山市にも是非お願いしたい。
賃金格差の問題に関しても、中小企業に対して格差を縮めるとこれくらいのメリットがあるを示したりしてくださるとありがたい。

事務局から、令和7年度の施策をより良くして令和8年度に効果の高いものとして繋げていくために委員の皆様から意見をいただきたい旨説明。

(大滝委員)

- ・効果があった事象については、大げさでも良いので PR をぜひして欲しい。福島県内や郡山市内、広報こおりやまを含めてしたら良いのではないかな。そうすると、それに携わる人間、又は間接、直接に見聞きする人間も郡山市で行っている事業や成果を知れる。成果が出た部分については、大げさぐらいにアピールをして、だから新年度重点的に郡山市としては取り組むとするとすごく良いのではないかな。
- ・予算について、細々ではなく重点的にお金を使った方が良い。継続的に行っている事業の成果のアピールも大げさに行うと、市民の理解も深まるのではないかな。

(初澤会長)

- ・説明いただいた政策をやったことによって何をどうすることを目指すのかの KPI は設定されていないのか。今後やっていく必要があるのかに結びついてくると思うので検討いただきたい。

(河内委員)

- ・役所の予算は KGI、KPI に馴染まないと思う。企業は KGI、KPI を設定して効果があったかどうかをやらざるを得ないのでやるが、役所は収益を生むというのとは少し違う。
- ・市長が目標としている「選ばれるまち郡山」については、具体的に例えば県外、市外、市内など誰から選ばれたいのかコアターゲットを明確にして欲しい。誰から選ばれたいのかによってアプローチも変わってくる。
- ・郡山に来たことのない人が郡山に来る機会（卓球や水泳の全国大会）を上手く利用して、観光や滞在、移住定住に結び付けるための予算を付けて欲しい。

(鈴木委員)

- ・市、県、国は自分の部署で例えばデジタル化、カーボンニュートラルなど進める際になぜ進めなければならないのか、なぜ必要なのか理由をもっと丁寧に伝えないと受け手に伝わらない。
- ・資料の中にもこういう社会を実現するためにやっている」と記載があると良い。

(宇埜委員)

- ・廃業が一定数いるので創業を増やしていかなければならない。2、3 ページに色々と記載があるがどちらかというと継続の事業が多いので、できれば創業のマインドを湧きあがらせられる新しい支援策を検討してほしい。

(大槻委員)

- ・これから役に立つようなことやスタートアップなど、未来への投資に対してお金をたくさん使ってほしい。

(小林委員)

- ・コンベンションにも通じる「選ばれるまち」として最低限ほしいのは、駅からのインフラで、レンタカー借用や文化センターへのアクセスを整えてほしい。
- ・イベント、スポーツ、コンベンションが郡山で開催される時に、その場所に行くまでの第一印象が初めて郡山に来た人に対して悪くすることばかりなので、早く直した方が良い。
- ・インフラとトイレが綺麗で充実していることは重要で、それには予算をかけた方が良い。まずは駅とインフラを何とかしてほしい。

(諸橋委員)

- ・県で関東から引っ越しした方に対して移住ということで助成をしているようだ。郡山市でも女性の流出ということがあるので、大学を出て戻ってきた方に何かメリットを与える事業はどうか。
- ・開成山プールはすごく良いプールと言われており、メダルを取った選手も来ている。大学生が施設を利用する際は、何か補助や安価に利用できると良い。そういう大学生が初めて郡山に来る、泊まる、大会をする、食事をするというのはすごく印象に残ると思う。郡山市に対して良いイメージが付くとまた郡山に来たいと思ってもらえるかもしれない。

(河内委員)

- ・小学生の卓球の全国大会は神戸市が毎年やっている。本来は持ち回りだったが、神戸市が非常に一生懸命やってくれるので毎年やるようになった。
- ・5000人くらい集まる水泳のバタフライの大会は、郡山市が毎年やってくれると全国から人が集まってくる。郡山に好感を持ってもらい、5年10年後にまた郡山で開催できるような体制をとってもらえると良い。
- ・50m プールは県内で郡山だけなので、大事にできると良い。
- ・大規模な全国大会を実施する際は、一個人や一企業では出来ないなので、実行委員会へ県や市にもご協力をいただきたい。

(初澤会長)

- ・KPI の話をしたのは、県の審議会があり、例えば女性活躍について「女性の経営者を増やしたいのか」、「企業で働く女性に産休育休を取得しやすくしてほしいのか」どういうことを目指すかによって政策が変わってくる。ある意味見える化であり、そういう方が審議会の委員としても意見が言いやすい。
- ・何を指標としてやっていくかで政策立案で違ってくる。

(河内委員)

- ・私は今回の会議で出席が最後になる。次回からは同友会の新しい政策提言委員会委員長が出席する。

(3) その他

(事務局)

- ・先程、大滝委員から話のあった定量的な観光の状況に関して確認が取れた。観光協会の入り込み数の統計を毎年取っており、これがコロナ渦の 2020 年度は 218 万人に対して、2024 年度は 399 万人ということで増えてはいる。ただし、コロナ前の 2019 年度は 500 万人を超えているので、入り込み数という点ではコロナ前には戻っていないと報告。
- ・また、観光ガイドが縦書きか横書きかという質問があったが、横で作成している。

(初澤会長)

- ・観光の入り込み統計の扱いは難しく、合計数は調査ポイントの合計なので、調査ポイントが増えれば自動的に増える。同じ場所での増減で見なければ正確な数が出ない。道の駅のイベントは観光客よりも地元客であり、数が増えているから入り込み客が増えているというのは間違いになるので、扱いはご留意いただきたい。

4 その他

- ・事務局から、現在の委員の任期中の会議は最後になること説明。
- ・事務局から、会議の御礼。

5 閉会